

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)
令和2年度 分担研究年度終了報告書

「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」
研究分担者 橋田 亨 神戸市立医療センター中央市民病院院長補佐

研究要旨

国内における卒後研修の実態を把握するため、薬学生の認知度、現役レジデントの満足度、若手薬剤師の関心・ニーズなどをアンケート調査した。対象は、薬学生、薬剤師レジデント、レジデント修了者、若手薬剤師とし、日本病院薬剤師会の協力を得て、依頼文書のQRコードから簡便にアンケートサイトに入り回答することとした。その結果、合計1,519名から回答が得られた。薬学生(282名)のレジデント制度についての認知度は、約76%と高かった。現役レジデント(70名)またはレジデント修了者(133名)とそれ以外の若手薬剤師(1033名)の間では、就職するにあたり優先したもの、必要とする卒後研修期間、学会発表や論文投稿の経験、学位取得希望の有無において異なる傾向が認められた。すなわち、レジデント経験者は卒後研修について臨床薬剤業務を集中的に経験し、専門薬剤師や学位取得につながるキャリアパスととらえ、修了者の一部はそれを実現している実態が明らかとなった。一方、就職するにあたり現在の薬学実務実習の内容は不十分とする意見がレジデント修了者42%、レジデント36%、若手薬剤師25%、薬学生12%で認められた。病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度があれば受けたい、とする意見が全ての対象群において60%を超えた。現在、卒後研修の充実と均てん化が求められており、これらの結果を令和3年度の卒後研修に関するカリキュラムの考え方作成に活かしていく。

A. 研究目的

本研究の目的は、レジデントプログラムを含めた薬剤師の卒後研修の実態を把握し、その課題を明らかにすることである。令和元年度の日本病院薬剤師会会員施設1,505施設を対象とした「薬剤師の卒後研修カリキュラムに関するアンケート調査」では、約3割の施設においては、カリキュラムに基づいた1ヶ月以上の薬剤師レジデントあるいは新人教育として卒後研修を実施してお

り、薬剤師卒後研修カリキュラムを検討する上では、そのような先駆的取り組みを行っている施設がモデルとなると考えられた。一方で研修を実施していない施設が約7割を占めたことから、薬剤師免許を取得した後、研修を受けることなく病院実務に携わる薬剤師が多くいることは、重要な課題であると考えられた。そこで、令和元年度の研究成果を踏まえ、令和2年度の分担研究では、薬学生・レジデント(卒後研修を受けて

いる薬剤師)等を対象に、卒後研修に対するニーズ、卒後研修の効果に関するアンケートを実施することで、必要とされるカリキュラムについて検討することとした。

B. 研究方法

1. アンケート調査方法

調査対象は、薬学生、薬剤師レジデント、レジデント修了者、若手薬剤師とした。方法は、研究協力者の木平健治(一般社団法人日本病院薬剤師会・会長)の指示のもと日本病院薬剤師会の全面的な協力を得て、令和元年度「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」に回答した 1,504 施設に郵送によりオンラインアンケート調査の協力を依頼した。併せて会員施設対象のメーリングリストを介して同様の依頼文とアンケートサイトへのリンクを送信した。薬学生は当該病院の第4期病院実務実習生に周知する方法をとった。若手薬剤師は当該病院の入職5年以内勤務者とし、同病院にレジデント修了者がいる場合は別途対象とした。現役レジデントについては、日本薬剤師レジデント制度研究会を通じてレジデント制度を有する病院に調査を依頼した。

オンラインアンケート調査は、インターネット上にアンケート用 WEB サイトを構築し、依頼文書にある QR コードから専用サイトに入り回答する方法をとった。

調査内容は就職する際に優先する条件、卒後研修に必要な期間、研修に期待するもの等を調査し、研修効果としては、病棟薬剤業務の実施、学会発表ならびに論文投稿、専門薬剤師・学位の取得状況などについて調査した(調査票は添付資料1)。

2. 調査、解析担当者

研究代表者と研究分担者(橋田亨)に加えて、研究協力者の室井延之(神戸市立アイセンター病院)が調査を実施した。

(倫理面への配慮)

本研究は主として研究代表者、研究分担者及び研究協力者による議論によって進め、調査は対象者の自由意志に基づき、専用 WEB サイト上で直接入力する方法をとったので、倫理面で問題となることはない。

C. 結果

2021年3月4日から29日の期間において、薬学生(4期実習生) 282名、若手薬剤師(勤務経験5年以下) 1,033名、薬剤師レジデント70名、薬剤師レジデント修了者134名の合計1,519名より回答を得た。

1. 薬学生が希望する卒業後の進路

薬学生の希望する就職先としては、病院(35.5%)、保険薬局(24.5%)、ドラッグストア(10.6%)の順であった。病院の薬剤師レジデント(2.8%)を希望する学生も見られた(添付資料2-Fig.1)。

2. 就職にあたって優先する条件

就職にあたって優先する条件は、やりがいのある業務、人間関係、所在地を重要視する傾向であった。優先順位1位について見てみると、若手薬剤師は就職に当たって所在地を最も優先しており(32.3%)、次いで、やりがい、人間関係であった。レジデントの優先条件はやりがい(32.9%)、所在地(27.1%)、教育研修(22.9%)であり、レジデント修了者においては、やりがい

(50.0%)、所在地 (17.2%)、教育研修 (12.7%) であった (添付資料 2-表 1)。

3. レジデント制度の認知度

薬学生 (282 名) のレジデント制度に対する認知度は、詳しく知っている 17.4%、レジデント制度という名前は知っている 58.9%と高かった。しかし、教育内容については知っている学生は 12.8%にとどまった (添付資料 2-Fig2-1、Fig2-2)。

4. 卒前実習内容・期間について

就職するにあたり、卒前実習の内容・期間が十分であったかの問いに対しては、就職するにあたり現在の薬学実務実習の内容は少ないとする意見がレジデント修了者 41.8%、レジデント 35.7%、若手薬剤師 24.6%、薬学生 12.4%の順で認められた。実習期間については薬学生の 95.7%、若手薬剤師の 88.9%が実習期間は十分であった、または長いと回答した。一方で、レジデントならびにレジデント修了者は 20%以上が実習期間を短いと回答した (添付資料 2-Fig.3-1、Fig.3-2)。

5. 卒後研修に必要な期間

卒業後の一定期間のカリキュラムに基づいた研修の必要期間については、薬学生は、「1 か月以上から 6 か月未満」が 43.6%、「6 か月以上から 1 年未満」が 32.6%であった。若手薬剤師についても必要期間は、「1 か月以上から 6 か月未満」が 41.8%、「6 か月以上から 1 年未満」40.1%との回答であった。レジデントならびにレジデント修了者についてはより長期間の研修を必要と感じており、レジデントは「1 年以上から 2 年

未満」が 48.6%、「2 年以上」35.7%、レジデント修了者は「1 年以上から 2 年未満」が 51.5%、「2 年以上」26.9%であった (添付資料 2 -Fig.4)。

6. 卒後研修に期待するもの

卒後研修で身につけたい知識・技術について、調剤、服薬指導、医師への処方提案、学会発表・論文投稿の 4 項目で優先順位を質問したところ、必要としている項目は、薬学生は服薬指導 47.9%、処方提案 27.3%であった。若手薬剤師は調剤が 60.8%と多く、次に服薬指導 21.8%であった。レジデントならびにレジデント修了者が必要としている項目では、レジデントは処方提案 37.1%、服薬指導 34.3%、修了者は処方提案 41.8%、服薬指導 28.4%と、ともに臨床薬剤業務に関する知識・技術を身につけることを優先していた (添付資料 2-表 2)。

7. 病院勤務後の学会発表、論文投稿状況

若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者に学会、論文投稿などの学術活動経験について調査した。学会活動については、若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者のそれぞれ 30.4%、40.0%、67.9%が筆頭発表者としての経験があった。論文投稿については、筆頭著者としての論文掲載が若手薬剤師では、4.1%、レジデントは 5.7%であったが、レジデントについては 22.9%が 2021 年度に投稿予定であった。レジデント修了者については、22.4%が筆頭著者として論文掲載されており、22.4%が 2021 年度に投稿を予定していた (添付資料 2 -Fig.5-1、Fig.5-2)。

8. 専門認定、学位の取得状況

専門領域の認定制度に関しては、若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者のそれぞれ 58.8%、75.7%、76.1%がその取得を目指しており、領域別ではがん領域が最も多かった。学位については、レジデント修了者の 12.7%が博士もしくは修士を取得していた（添付資料 2-表 3、表 4）。

9. 卒後研修の必要性について

薬学生、若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者のそれぞれ 60.3%、69.2%、81.4%、73.1%が、病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度があれば受けたいと答えた（Fig.6）。

D. 考察

薬剤師の卒後研修カリキュラムの必要性について、薬学生、若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者を対象にアンケート調査を実施したところ、合計 1,519 名より回答を得た。令和元年度「薬剤師の卒後研修カリキュラムの調査研究」に回答が得られた 1,504 施設に郵送にて依頼文を送るとともに、会員施設対象のメーリングリストを介してアンケートサイトへのリンクを送信しており、若手薬剤師においては、施設の病院規模、開設主体、病院種別などには大きな偏りは無いと考えている。薬学生については新型コロナウイルス感染症対策のため、薬学生にアンケートを直接依頼することが困難と考えられたため、第 4 期の病院実務実習受け入れ病院から実習生に直接周知する方法をとった。既に薬局実務実習を経験した後に病院実務実習を経験している、という点では医療現場の現状をある程度知っ

た上での回答といえる。一方で 4 期に限ったことで学生の勉学意欲や医療に対する意識の偏りが無いかどうかは明らかではない。

薬学生の希望する就職先としては、病院を第一に希望する者が 35.5%あり、平成 31 年度の一般社団法人 薬学教育協議会「就職動向調査」における病院・診療所の就職率 21%より多い傾向がみられた。現に 4 期の病院実習を受けている、あるいはその直後の調査であったため、病院実習で受けた印象が良い方向に働いた可能性はある。就職にあたり優先する条件としては、薬学生、若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者ともに、やりがいと重要としており、レジデント、レジデント修了者で顕著であった。また、就職に際しては所在地も重要な要因となっており、薬剤師の地域偏在を考えると上では、魅力ある職場、やりがいのある環境を整えることは重要な対策の 1 つであると考える。

卒前実習の期間は、薬学生、若手薬剤師では十分との回答が多かった一方で、レジデントならびにレジデント修了者は 20%以上が実習期間を短いと考えていた。さらに、卒後研修に必要な期間においても、レジデント、レジデント修了者の多くは 1 年以上の研修が必要と答えた。このことは、研修で身につけたい知識・技術についての回答と関連づけてみることができる。薬学生、若手薬剤師では、調剤や患者への服薬指導の知識・技術を重視している一方、レジデントではそれに加えて、医師への処方提案といった多職種連携での活躍が見込まれる能力を重視する傾向にあった。昨年度の本研究班「卒後研修に関する医療機関へのアンケート調査」によると、レジデントを実施する施設で

は、病棟業務、チーム医療、薬剤師外来といった研修に重点を置いていた。また、医療における科学的視点を養うために臨床研究にも取り組んでいた。多職種連携の中で薬剤師としての専門性を発揮できる人材を養成していくためには、その緒として卒後研修カリキュラムの研修項目にこれら臨床薬剤業務を経験するプログラムを盛り込んでおく必要があると考える。

卒後研修において、調剤等セントラル業務のみならず、多岐にわたる疾患、薬物治療に直接関わることができるカリキュラムへのニーズがあることが示唆された。専門・認定薬剤師の資格取得状況、学会発表や論文掲載さらには学位の取得状況についての調査結果から、現状のレジデント制度は薬剤師の専門性を高め、教育・研究にも携わる指導者への最初のキャリアパスとしての機能を有している可能性が示唆された。

卒後研修制度については、薬学生、若手薬剤師、レジデント、レジデント修了者の全てが、高い割合で必要と感じていた。特に病院に就職しない場合においても、卒業後に一定期間にわたる病院研修のニーズが明らかとなったことは、今後の薬剤師卒後研修制度を検討する上で最も留意すべき点であると考えられる。

E. 結論

現在、卒後研修の充実と均てん化が求められており、均一で質の高い卒後研修を提供するためには、中小病院でも実施可能な一定期間のカリキュラムの策定が喫緊の課題である。本調査結果を令和3年度に実施する「卒後研修に関するカリキュラムの考え方作成」に活かしていく。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし。

資料 1

アンケート調査票：薬学生（4期薬学実務実習生）

Q1. 在籍中の大学について、1つ選択してください。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

国立大学・公立大学・私立大学

Q2. 病院実習を行った施設はどちらになりますか。具体的な病院名を入力してください。【必ず回答】

回答 病院名を記載

Q3. 希望の進路先を1つ選択してください。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

病院（正規職員）・病院（レジデント）・保険薬局・ドラッグストア

企業（製薬関係）・企業（製薬関係以外）・大学等教育関係

学位取得にむけて進学・決まっていない・その他

Q4. 就職先を決めるにあたり、優先したものに順位をつけてください。【必ず回答】

回答 下記より1～7位を順位づけして回答

- ・ 給与が高い
- ・ 福利厚生が充実している（休暇がとりやすいなど）
- ・ 所在地
- ・ 教育研修が充実している
- ・ やりがいのある業務ができる
- ・ 人間関係が良い
- ・ 知名度がある

Q5. 「薬剤師レジデント制度」について知っていますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

詳しく知っている・制度の名前だけ知っている・知らない

Q6. 日本での「薬剤師レジデント制度」を実施している病院の教育内容を知っていますか。

【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

教育内容を知っている・「薬剤師レジデント制度」を実施している病院名は知っているが教育内容までは知らない・実施している病院も教育内容も知らない

Q7. 就職するにあたり、実務実習の内容は十分であると思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

多い・適切・少ない

資料 1

Q8. 就職するにあたり、実務実習の期間は十分であると思いますか。【必ず回答】

回答 下記より 1 つ選択

長い・十分・短い

Q9. あなたが希望する就職先での新人研修期間は、どの程度必要だと思いますか。

*本調査での新人研修は、一定期間のカリキュラムに基づいた教育研修とします

【必ず回答】

回答 下記より 1 つ選択

1 か月未満・1 か月以上から 6 か月未満・6 か月以上から 1 年未満

1 年以上から 2 年未満・2 年以上

Q10. 卒後研修を受けるとすれば、期待するものは何ですか。優先するものに 1 から順位をつけてください。【必ず回答】

回答 下記より 1～4 位を順位づけして回答

- ・ 調剤する知識・技術を身につける
- ・ 患者に服薬指導する知識・技術を身につける
- ・ 医師に処方提案する知識・技術を身につける
- ・ 論文、学会発表する知識・技術を身につける

Q11. 病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度ができるのであれば、どのように思いますか。【必ず回答】

回答 下記より 1 つ選択

受けたいと思う・わからない・必要ないと思う

Q. 性別【必ず回答】

回答 下記より 1 つ選択

男性・女性

Q. 都道府県【必ず回答】

回答 47 都道府県より選択

Q. 市区町村

回答 任意で記載

資料 1

アンケート調査票：薬剤師レジデント

Q1. 就業している施設はどちらになりますか。【必ず回答】

回答 病院名を記載

Q2. 薬剤師レジデントは何年目ですか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

1年目・2年目・3年目・その他（年数を記載）

Q3. 薬剤師レジデント修了後の就職先はどこになりますか

（1年目レジデント、2年目レジデントで就職先が未定の場合は、希望するものを1つ選択してください）。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

病院（自施設）・病院（他施設）・保険薬局・ドラッグストア・企業（製薬関係）

企業（製薬関係以外）・大学等教育関係・その他

Q4. 就職先を決めるにあたり、優先したものに順位をつけてください。【必ず回答】

回答 下記より1～7位を順位づけして回答

- ・ 給与が高い
- ・ 福利厚生が充実している（休暇がとりやすいなど）
- ・ 所在地
- ・ 教育研修が充実している
- ・ やりがいのある業務ができる
- ・ 人間関係が良い
- ・ 知名度がある

Q5. 就職するにあたり、大学での実務実習の内容は十分であったと思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

多い・適切・少ない

Q6. 就職するにあたり、大学での実務実習の期間は十分であったと思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

長い・十分・短い

Q7. 実務実習教育と薬剤師レジデント教育プログラムは、連動していると思いますか。

【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

思う・わからない・思わない

資料 1

Q8. 薬剤師レジデント研修期間は、どの程度必要だと思いますか。

*本調査での薬剤師レジデント研修は、一定期間のカリキュラムに基づいた教育研修とします。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

- 1か月未満・1か月以上から6か月未満・6か月以上から1年未満
- 1年以上から2年未満・2年以上

Q9. 薬剤師レジデント研修で習得したいものについて、優先するものに1から順位をつけてください。

【必ず回答】

回答 下記より1~4位を順位づけして回答

- ・ 調剤する知識・技術を身につける
- ・ 患者に服薬指導する知識・技術を身につける
- ・ 医師に処方提案する知識・技術を身につける
- ・ 論文、学会発表する知識・技術を身につける

Q10. 病院勤務後に学会発表を行いましたか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

- 発表者として学会発表した・共同演者として学会発表した
- 今年（2021年）学会発表する予定・学会発表は考えていない

Q11. 病院勤務後に学会誌・学術雑誌に論文を掲載しましたか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

- 筆頭著者としての論文掲載した・共同著者としての論文掲載した
- 今年（2021年）論文掲載する予定・論文掲載する予定はない

Q12. 現在（もしくは今後）目指している専門・認定薬剤師はありますか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

- がん・救急・精神・栄養・地域医療・その他・特に考えていない

Q13. 学位（博士や修士）取得を考えていますか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

- 取得している（博士もしくは修士）・修士を取得し、博士取得にむけて進学中
- 修士取得に向けて進学中・現在学位取得の検討をしている
- 今は考えていない・その他

資料 1

Q14. 病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度ができるのであれば、どのように思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

良いと思う・わからない・必要ないと思う

Q. 性別【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

男性・女性

Q. 都道府県【必ず回答】

回答 47 都道府県より選択

Q. 市区町村

回答 任意で記載

資料 1

アンケート調査票：薬剤師レジデント修了者

Q1. 就業している施設はどちらになりますか。【必ず回答】

回答 病院名を記載

Q2. 薬剤師レジデント修了後の勤務年数は何年になりますか。【必ず回答】

回答 年数を記載

Q3. 薬剤師レジデント修了後の就職先はどちらになりますか。複数勤務している方は、現在もしくは直近のものを選択してください。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

病院（自施設）・病院（他施設）・保険薬局・ドラッグストア・企業（製薬関係）

企業（製薬関係以外）・大学等教育関係・その他

Q4. 就職先を決めるにあたり、優先したものに順位をつけてください。【必ず回答】

回答 下記より1～7位を順位づけして回答

- ・ 給与が高い
- ・ 福利厚生が充実している（休暇がとりやすいなど）
- ・ 所在地
- ・ 教育研修が充実している
- ・ やりがいのある業務ができる
- ・ 人間関係が良い
- ・ 知名度がある

Q5. 就職するにあたり、大学での実務実習の内容は十分であったと思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

多い・適切・少ない

Q6. 就職するにあたり、大学での実務実習の期間は十分であったと思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

長い・十分・短い

Q7. 実務実習教育と薬剤師レジデント教育プログラムは、連動していると思いますか。

【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

思う・わからない・思わない

資料 1

Q8. 薬剤師レジデント研修期間は、どの程度必要だと思いますか。

*本調査での薬剤師レジデント研修は、一定期間のカリキュラムに基づいた教育研修とします。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

- 1か月未満・1か月以上から6か月未満・6か月以上から1年未満
- 1年以上から2年未満・2年以上

Q9. 薬剤師レジデント研修で習得したいものについて、優先するものに1から順位をつけてください。

【必ず回答】

回答 下記より1~4位を順位づけして回答

- ・ 調剤する知識・技術を身につける
- ・ 患者に服薬指導する知識・技術を身につける
- ・ 医師に処方提案する知識・技術を身につける
- ・ 論文、学会発表する知識・技術を身につける

Q10. 病棟業務において、担当の病棟はありますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

はい・いいえ

Q11. 病院勤務後に学会発表を行いましたか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

- 発表者として学会発表した・共同演者として学会発表した
- 今年（2021年）学会発表する予定・学会発表は考えていない

Q12. 病院勤務後に学会誌・学術雑誌に論文を掲載しましたか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

- 筆頭著者としての論文掲載した・共同著者としての論文掲載した
- 今年（2021年）論文掲載する予定・論文掲載する予定はない

Q13. 現在、専門・認定薬剤師を取得していますか。取得している専門・認定薬剤師を選択ください。

【必ず回答】

回答 下記より複数選択

がん・救急・精神・栄養・地域医療・その他・現在は取得していない

Q14. 現在（もしくは今後）目指している専門・認定薬剤師はありますか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

がん・救急・精神・栄養・地域医療・その他・特に考えていない

資料 1

Q15. 学位（博士や修士）取得を考えていますか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

取得している（博士もしくは修士）・修士を取得し、博士取得にむけて進学中

修士取得に向けて進学中・現在学位取得の検討をしている

今は考えていない・その他

Q16. 病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度ができるのであれば、どのように思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

良いと思う・わからない・必要ないと思う

Q. 性別【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

男性・女性

Q. 都道府県【必ず回答】

回答 47 都道府県より選択

Q. 市区町村

回答 任意で記載

資料 1

アンケート調査票：若手薬剤師（病院勤務5年以下、レジデントおよび修了者を除く）

Q1. 就業している施設はどちらになりますか。【必ず回答】

回答 病院名を記載

Q2. 勤務年数は何年になりますか。【必ず回答】

回答 勤務年数を数字で記載

Q3. 病院勤務前の学歴または職歴はどちらになりますか（直近のものを1つ選択してください）。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

6年制大学卒・他の病院から転職・保険薬局からの転職・その他

Q4. 就職先を決めるにあたり、優先したものに順位をつけてください。【必ず回答】

回答 下記より1～7位を順位づけして回答

- 給与が高い
- 福利厚生が充実している（休暇がとりやすいなど）
- 所在地
- 教育研修が充実している
- やりがいのある業務ができる
- 人間関係が良い
- 知名度がある

Q5. 就職するにあたり、大学での実務実習の内容は十分であったと思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

多い・適切・少ない

Q6. 就職するにあたり、大学での実務実習の期間は十分であったと思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

長い・十分・短い

Q7. 新人研修期間は、どの程度必要だと思えますか。

*本調査での新人研修は、一定期間のカリキュラムに基づいた教育研修とします。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

1か月未満・1か月以上から6か月未満・6か月以上から1年未満

1年以上から2年未満・2年以上

資料 1

Q8. 新人研修で習得したいものについて、優先するものに1から順位をつけてください。

【必ず回答】

回答 下記より1~4位を順位づけして回答

- ・ 調剤する知識・技術を身につける
- ・ 患者に服薬指導する知識・技術を身につける
- ・ 医師に処方提案する知識・技術を身につける
- ・ 論文、学会発表する知識・技術を身につける

Q9. 病棟業務において、担当の病棟はありますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

はい・いいえ

Q10. 病院勤務後に学会発表を行いましたか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

発表者として学会発表した・共同演者として学会発表した
今年（2021年）学会発表する予定・学会発表は考えていない

Q11. 病院勤務後に学会誌・学術雑誌に論文を掲載しましたか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

筆頭著者としての論文掲載した・共同著者としての論文掲載した
今年（2021年）論文掲載する予定・論文掲載する予定はない

Q12. 現在、専門・認定薬剤師を取得していますか。取得している専門・認定薬剤師を選択ください。

【必ず回答】

回答 下記より複数選択

がん・救急・精神・栄養・地域医療・その他・現在は取得していない

Q13. 現在（もしくは今後）目指している専門・認定薬剤師はありますか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

がん・救急・精神・栄養・地域医療・その他・特に考えていない

Q14. 学位（博士や修士）取得を考えていますか。【必ず回答】

回答 下記より複数選択

取得している（博士もしくは修士）・修士を取得し、博士取得にむけて進学中
修士取得に向けて進学中・現在学位取得の検討をしている
今は考えていない・その他

資料 1

Q15. 病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度ができるのであれば、どのように思いますか。【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

良いと思う・わからない・必要ないと思う

Q. 性別【必ず回答】

回答 下記より1つ選択

男性・女性

Q. 都道府県【必ず回答】

回答 47 都道府県より選択

Q. 市区町村

回答 任意で記載

資料 2

Fig. 1 薬学生が希望する卒業後の進路

希望の進路先を1つ選択してください。
(n=282)

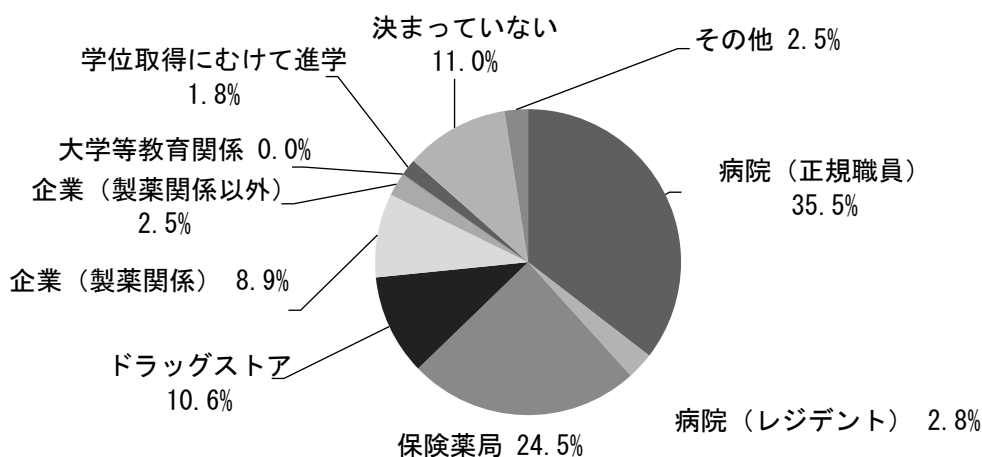


表 1 就職先を決めるにあたって、優先する条件 (%)

		給与	福利厚生	所在地	教育研修	やりがい	人間関係	知名度
1位	薬学生	11.7	12.1	14.9	14.2	29.8	16.7	0.7
	レジデント	1.4	4.3	27.1	22.9	32.9	10.0	1.4
	レジデント修了者	2.2	6.0	17.2	12.7	50.0	9.7	2.2
	若手薬剤師	3.9	10.4	32.3	6.5	31.6	12.7	2.7
2位	薬学生	12.8	22.0	8.5	16.0	17.4	21.3	2.1
	レジデント	8.6	8.6	14.3	27.1	18.6	14.3	8.6
	レジデント修了者	6.7	6.0	21.6	22.4	21.6	17.2	4.5
	若手薬剤師	8.9	18.1	18.2	13.1	18.7	14.4	8.6
3位	薬学生	19.1	18.8	14.5	16.3	11.0	15.6	4.6
	レジデント	5.7	14.3	17.1	10.0	27.1	14.3	11.4
	レジデント修了者	6.0	15.7	17.2	19.4	9.7	15.7	16.4
	若手薬剤師	10.9	18.4	13.9	14.7	16.9	14.8	10.3

Fig. 2 薬学生のレジデント制度の認知度

Fig. 2-1 レジデントの存在

「薬剤師レジデント制度」について知っていますか。
(n=282)

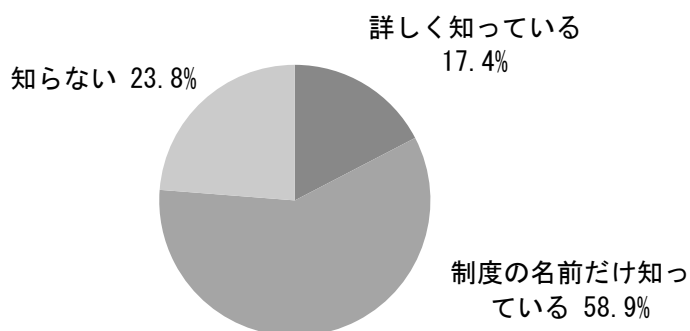


Fig. 2-2 レジデントの教育内容

日本で「薬剤師レジデント制度」を実施している病院の教育内容を知っていますか。
(n=282)

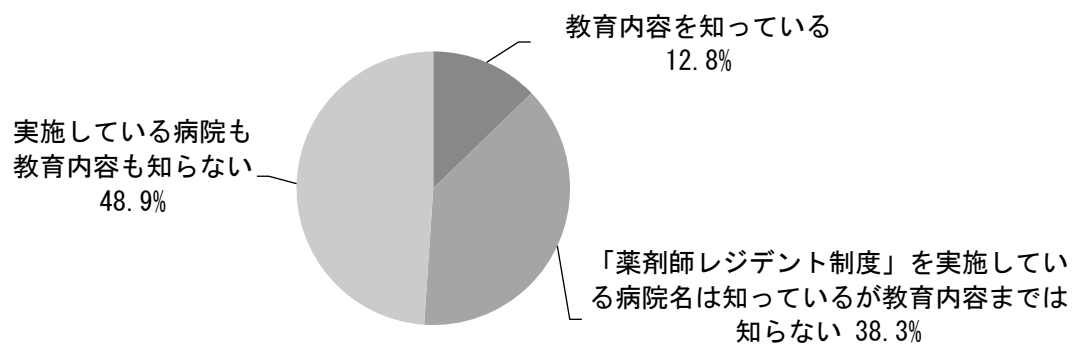


Fig. 3 就職するにあたって実務実習内容・期間について

Fig. 3-1 実習内容

就職するにあたり、実務実習の内容は十分だと思いますか (%)

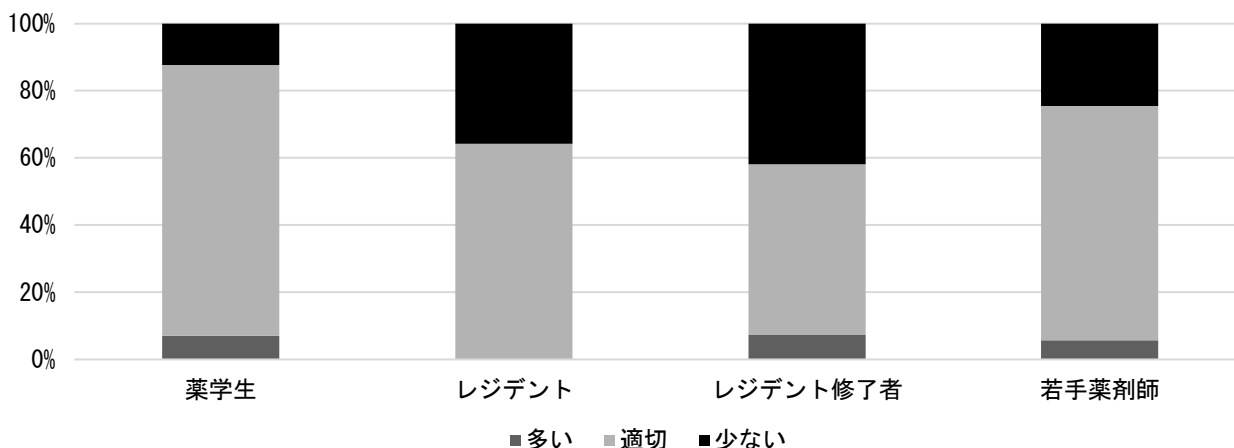


Fig. 3-2 期間

就職するにあたり、実務実習の期間は十分だと思いますか (%)

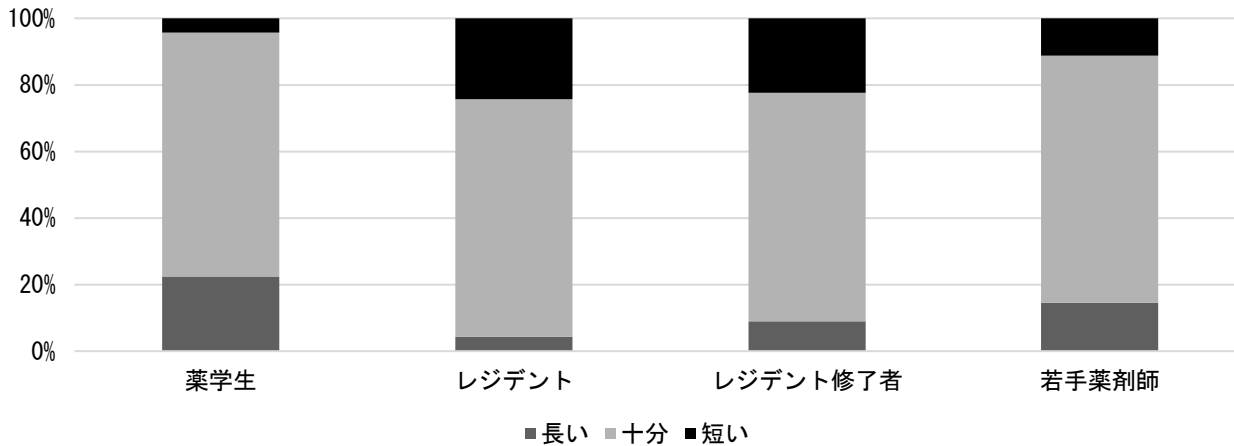


Fig. 4 就職先での新人研修に必要と考える期間

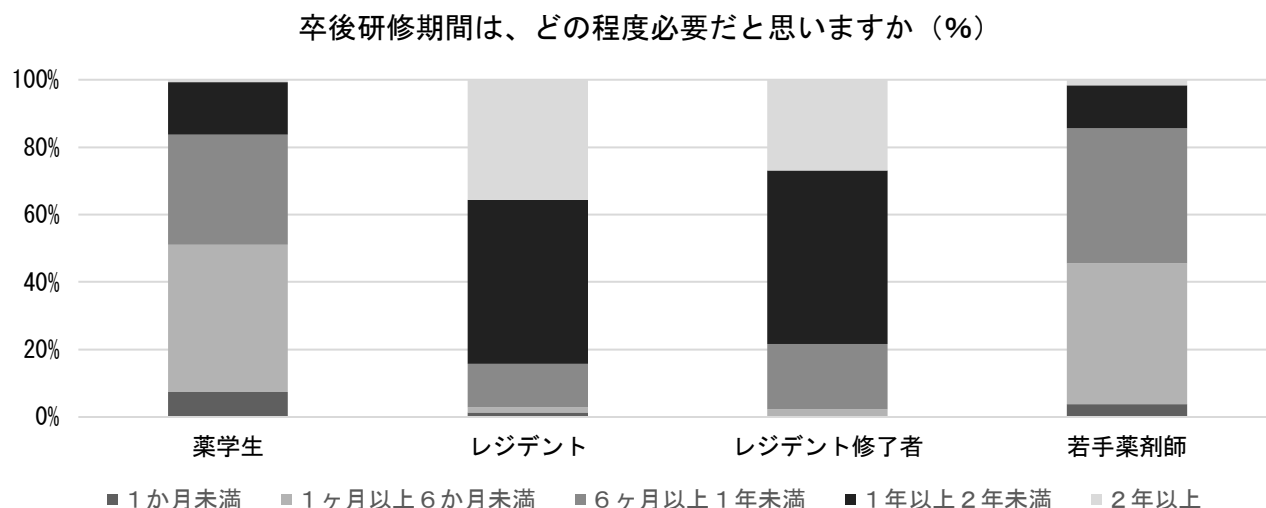


表2 卒後研修で習得したい知識・技術 (%)

		調剤する知識・技術を身につける	患者に服薬指導する知識・技術を身につける	医師に処方提案する知識・技術を身につける	論文、学会発表する知識・技術を身につける
1位	薬学生	17.7	47.9	27.3	7.1
	レジデント	17.1	34.3	37.1	11.4
	レジデント修了者	14.2	28.4	41.8	15.7
	若手薬剤師	60.8	21.8	15.9	1.5
2位	薬学生	21.3	36.5	34.8	7.4
	レジデント	18.6	38.6	22.9	20.0
	レジデント修了者	6.7	30.6	32.1	30.6
	若手薬剤師	12.8	55.7	28.5	3.1
3位	薬学生	35.1	13.1	33.7	18.1
	レジデント	22.9	22.9	35.7	18.6
	レジデント修了者	25.4	35.8	20.1	18.7
	若手薬剤師	18.6	20.4	53.0	7.9

Fig. 5 学術活動

Fig. 5-1 学会発表の経験

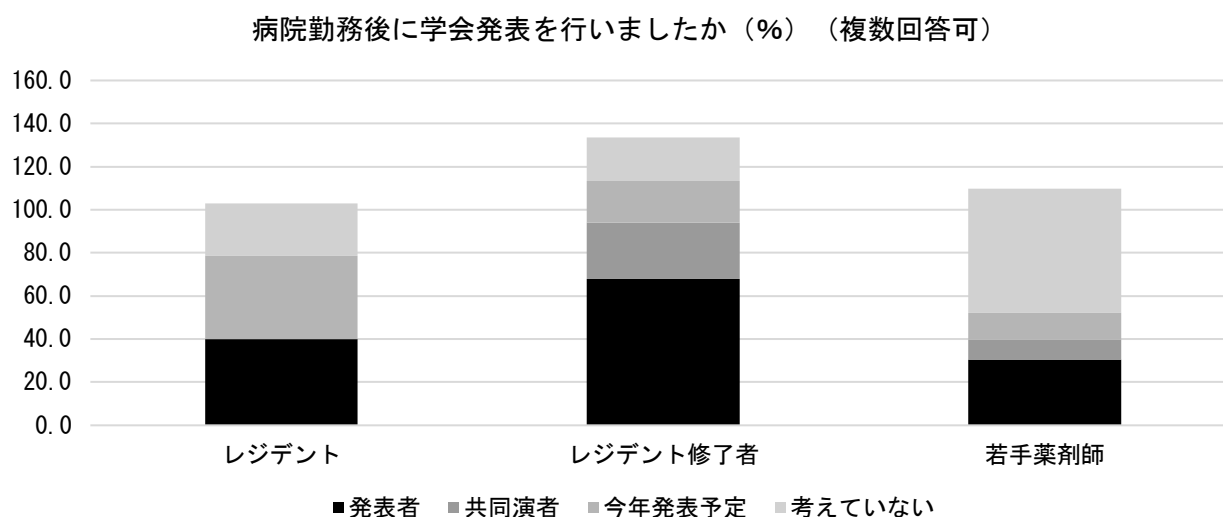


Fig. 5-2 論文投稿の経験

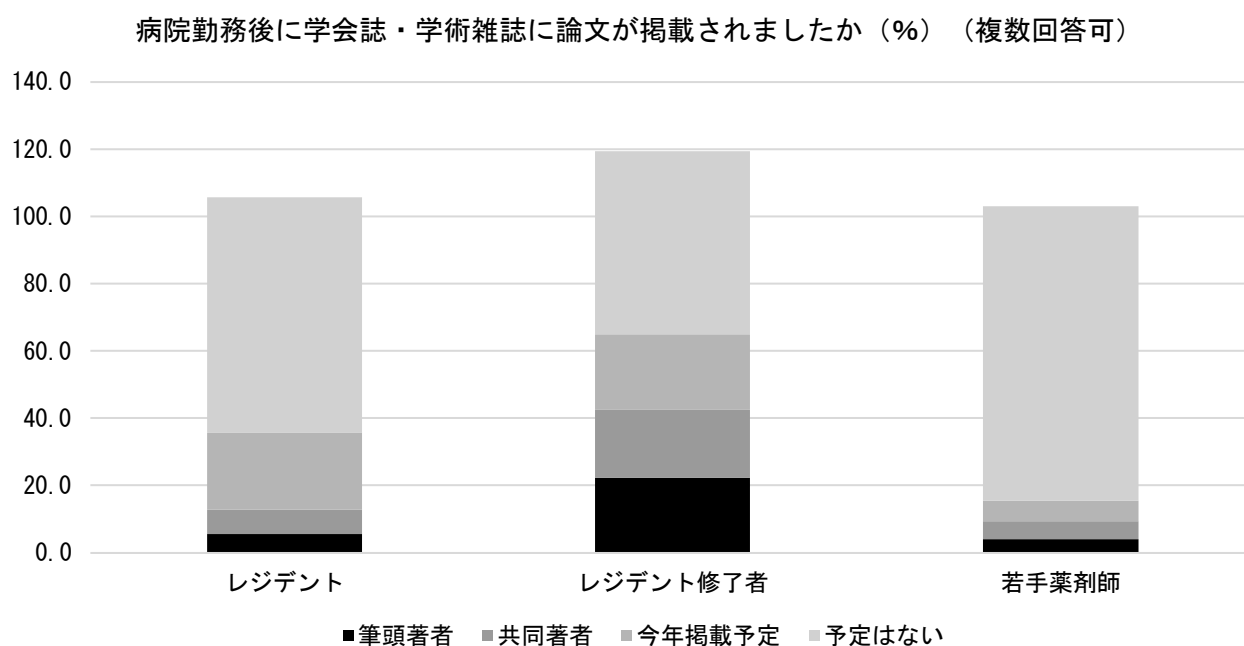


表3 専門・認定薬剤師の認定取得状況について (%)

	レジデント修了者	若手薬剤師
がん	8.2	0.3
救急	0.0	0.0
精神	0.7	0.1
栄養	2.2	0.4
地域医療	0.0	0.0
その他	17.2	6.8
現在は取得していない	73.1	92.5
回答数 (名)	(134)	(1033)

表4 学位取得状況について (%)

	レジデント	レジデント修了者	若手薬剤師
博士もしくは修士を取得済み	5.7	12.7	3.4
博士取得にむけて進学中	5.7	3.7	1.4
修士取得にむけて進学中	0.0	0.0	0.0
学位取得を検討している	15.7	16.4	5.0
今は学位を考えていない	71.4	64.9	89.4
その他	1.4	2.2	0.8
回答数 (名)	(70)	(134)	(1033)

Fig. 6 病院薬剤師と就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度が必要か

病院薬剤師として就職しない場合でも、卒業後に一定期間の病院研修制度ができるのであれば、どのように思いますか (%)

